

安全データシート(SDS)

作成日 2016年9月23日
改訂日 2022年4月1日

該当製品 チューコーフロー™ ポリイミド粘着テープ
API-111A, API-114A, API-114A FR, API-114A(ST), API-114D, API-117G, API-214A, API-214AE

1. 製品及び会社情報

製品の名称	上述の該当製品を参照。
製品コード	-
会社名称	中興化成工業株式会社
住所	東京都港区赤坂2-11-7 ATT新館10階
電話番号	03-6230-4414/81-3-6230-4417
FAX番号	03-6230-4413/81-3-6230-4446
推奨用途	工業用
使用上の制限	工業用
国内製造事業者等の情報	上に同じ

2. 危険有害性の要約

製品のGHS分類	区分に該当しない
GHSラベル要素	
絵表示またはシンボル	なし
注意喚起語	なし
危険有害性情報	なし
注意書き	なし
GHS分類に関係しない又はGHSで扱われない他の危険有害性	データなし
重要な徴候及び想定される非常事態の概要	情報なし
その他	なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	官報公示整理番号		CAS番号
		化審法	安衛法	
ポリイミド	30-87%	不明	不明	非開示
シリコーン系粘着剤	11-70%	不明	不明	-

GHS分類に寄与する成分 情報なし

4. 応急措置

吸入した場合	加熱や加工によるヒュームや粉塵を吸入した場合は空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 医師に連絡すること。 必要に応じて医師の診断／手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。 医師に連絡すること。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断／手当てを受けること。
眼に入った場合	小片や粉塵が目に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 医師に連絡すること。 眼の刺激が続く場合、医師の診断／手当てを受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。 コップ 1-2 杯の水または牛乳を飲ませること。 医師に連絡すること。 痛みや刺激が続く場合、医師の診断／手当てを受けること。 被災者に意識のない場合は、口から何も与えてはならない。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	情報なし
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	情報なし
医師に対する特別な注意事項	情報なし

5. 火災時の措置

適切な消火剤	粉末、二酸化炭素、泡、水噴霧、棒状注水
使ってはならない消火剤	情報なし
火災時の特有の危険有害性	火災によって刺激性または毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	火災発生場所の周辺への関係者以外の立入りを禁止する。 移動可能な容器は、速やかに安全な場所へ移動する。 延焼の恐れのないよう水噴霧で周囲の容器、施設等を冷却すること。 消火作業は風上から行うこと。 周囲の状況に応じた適切な消火方法を用いること。 消火に用いた材料が環境中に放出されないように注意する。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	消火活動の際は、適切な保護具(耐熱手袋、保護眼鏡、保護マスク、空気式呼吸器、耐熱保護衣等)を着用すること。
注意	情報なし

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	漏出した場所の周辺には、ロープを張るなどして人の立ち入りを禁止し、危険区域での火気使用を禁止する。 漏出時の処理を行う際には、適切な保護具(保護手袋、保護眼鏡、保護マスク、保護衣、保護エプロン等)を着用すること。 全ての着火源を取り除くこと。 漏出物に触れたり、その中を歩いたりしないこと。 フィルムに乗ると滑りやすいので注意すること。 粉塵、ダストを吸入しないこと。
-----------------------	---

環境に対する注意事項		河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法・機材		細片化し、散乱した時は回収し、13項に従い廃棄する。
二次災害の防止策		情報なし
7. 取扱い及び保管上の注意		
取扱い		
	技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
	安全取扱注意事項	局所排気、全体換気を備えた換気の良い場所で作業を行う。 熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。 取り扱い時に静電気を発生しやすいため、静電気放電に対する措置を講ずること。 製品端面の切り傷に注意すること。 フィルム運搬の際にはロールの落下などによる怪我に注意すること。 粉塵、ダストを吸入しないこと。 眼、皮膚への接触を避けること。 取扱い後は手や顔をよく洗うこと。
	接触回避 衛生対策	データなし データなし
保管		
	安全な保管条件	火気厳禁。 密閉容器で保管し、換気の良い乾燥した場所で保管すること。
	安全な容器包装材料	包装、梱包材の規制はないが破損しないものに入れる。
8. ばく露防止及び保護措置		
管理濃度 許容濃度等 設備対策		設定なし 設定なし 必要に応じて取扱い場所の近くに手洗い、洗眼および身体洗浄のための設備を設置する。 局所排気または全体換気を行うこと。
保護具		
	呼吸用保護具	呼吸用保護具を着用すること。 送風マスク又は有機ガス用防毒マスクを着用すること。
	手の保護具	適切な手袋を着用すること。
	眼、顔面の保護具	適切な保護眼鏡、フェイスガードを着用すること。
	皮膚及び身体の保護具	必要に応じて個人用の保護衣、保護面を着用すること。
9. 物理的及び化学的性質		
外観		
	物理的状態 色	固体 薄茶色
臭い		無臭
融点／凝固点		データなし

沸点又は初留点及び沸点範囲		データなし
可燃性		難燃性
爆発下限界及び爆発上限界 ／可燃限界		
	下限	データなし
	上限	データなし
引火点		データなし
自然発火点		データなし
分解温度		データなし
pH		データなし
動粘性率		データなし
溶解度		データなし
n-オクタノール／水分配係数		データなし
蒸気圧		データなし
密度及び／又は相対密度		データなし
相対ガス密度		データなし
粒子特性		適用無し
その他のデータ		データなし
10. 安定性及び反応性		
反応性		通常の手扱い条件においては安定である。
化学的安定性		通常の手扱い条件においては安定である。
危険有害反応可能性		通常の手扱い条件下では危険有害反応を起こさない。 強酸、強アルカリと反応し発熱するおそれがある。
避けるべき条件		直射日光、高温へのばく露、火気厳禁。
混触危険物質		強酸、強塩基
危険有害な分解生成物		火災によって刺激性または毒性のガス(CO、CO ₂ 、NO _x 等)を発生するおそれがある。
11. 有害性情報		
急性毒性		
	経口	データなし
	経皮	データなし
	吸入(蒸気)	データなし
	吸入(粉じん)	データなし
皮膚腐食性／刺激性		データなし
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性		データなし
呼吸器感作性又は皮膚感作性		データなし
生殖細胞変異原性		データなし
発がん性		データなし
生殖毒性		データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)		データなし
特定標的臓器毒性(反復ばく露)		データなし

誤えん有害性	データなし
12. 環境影響情報	
生態毒性	データなし 漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取扱いに注意する。 特に、製品が、土壌、排水溝・河川を經由して海洋に流出しないように対処すること。
残留性・分解性	データなし
生態蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし
13. 廃棄上の注意	
化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
汚染容器及び包装	関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
14. 輸送上の注意	
国連番号	該当なし
品名(国連輸送名)	該当なし
国連分類	該当なし
容器等級	該当なし
海洋汚染物質	該当なし
MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBCコードによるばら積み輸送される液体物質	該当なし
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	輸送の前に容器の破損、腐食、漏れ等のないことを確かめる。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れを生じないように積み込み、荷崩れの防止を確実に 行う。 重量物を上積みしない。
国内規制がある場合の規制情報	適用なし
15. 適用法令	
該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報	
化学物質管理促進 (PRTR) 法	該当なし
労働安全衛生法	該当なし
毒物及び劇物取締法	該当なし

その他の適用される法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

該当なし

16. その他の情報

この危険有害性情報は、工業用途について一般的な取扱等を前提に作成したものです。従って、実際の取扱等においては、ここに記載してある危険有害性情報を参考にし、十分注意して取扱って下さい。

用途限定

本製品は、医療用途には製造しておりません。従って、人体移植や体液生体組織に接触する用途には使用しないで下さい。
医療関連機器等への使用が想定される場合は事前に当社担当部門に直接ご相談下さい。

引用文献

材料メーカーSDS

この情報は新しい知見に基づき、改訂されることがあります。
記載内容のうち、含有量、物理的及び化学的性質等の情報は保証値ではありません。
危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅したわけではありません。